様 式 Ｃ－７－１

平成22年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機 関 番 号 | 3 | 2 | 6 | 0 | 4 |　　2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研 究 種 目 名　若手研究（B）　　4. 研究期間　平成22年度 ～ 平成24年度

5. 課 題 番 号 | 2 | 2 | 7 | 0 | 0 | 7 | 3 | 8 |

6. 研 究 課 題 名　山地民から探るモチ食文化の起源と伝播―東アジアの人々がモチに込めた意義

7. 研 究 代 表 者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 3 4 8 4 8 0	ウツノミヤ 宇都宮 ユカ 由佳	家政学部	助教

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化するため、図、ｸﾞﾗﾌ等は記載しないこと。

1. 文献及び資料収集・整備：東アジアのモチの種類，用い方，精神的意義などの把握
本年度は，『台灣原住民影像誌 布農族編』『台溝原住民影像誌 鄒族編』『實夏史話-矮靈祭』『台灣原住民族祭典的盛会』等，台湾の原住民のモチ食文化に関する文献を収集することができた．台湾では，主としてアワを使用していた．
2. モチ食文化の実態調査（タイ，中国，台湾へ現地調査）
1）タイ調査：平成22年8月3-17日ラフ族，モン族の調査をした．(1)ラフは，正月（女正月）の時にモチを搗く．杵は竹であり，節目でモチを搗く．臼は，横型で1mほど，かまぼこを逆さにしたような形状である．各家で搗いたモチは，各家々の祖先を祭る棚に供えられる．また村の長老の家に集められ，祈りがささげられ，その後村人に再分配される．(2)モンは，12月にモチを搗く．横杵2本，臼は舟形で，両端から2者が交互に手前に引くようにモチを搗く．搗く前に杵と臼に蜜ろうを塗る．他の民族とは異なり，煎ったゴマ等と入れながらモチを搗かない．モチをまるめる時は卵黄を手につける．
2）中国調査：平成23年8月13-17日雲南省の西双版納（シーサンパンナ）に居住するタイルー族は，4月13-15日（タイ族の正月）にチマキを作る．モチ米を黄色い花で色付けし，寺へ持っていく．高齢者の一部は日常食として，小型の木製の杵と臼で，モチ米とエゴマを入れて搗くが，現在多くのタイルーはモチを搗かない．
3）台湾調査：平成23年8月27日～9月4日台湾の原住民は米ではなくモチアワを使用し，縦杵，縦臼でモチを搗いていた．今日モチ搗きはほとんどせず，観光として行われていた．伝統文化は，民族の行事だけなく観光という側面で，維持継承されることが明らかとなった．

10. キーワード

(1) 山地民　(2) モチ　(3) 食文化
(4) 東アジア　(5) 意義　(6)
(7)　(8)

（裏面に続く）